backlog by nulab

IT・通信

エクセルの個別管理が招く 3つの経営損失



Backlog導入で、部長・経営層が
見たい情報がリアルタイムに届く

マネジメントの理想と、現場に乱立する「エクセル管理」の実態

IT組織のガバナンスと生産性を最大化するために、
部長・経営層の求める情報と、現場の管理手法には大きなギャップがあります。

マネジメント層が把握したいこと

全体最適化された進捗

「本当のボトルネック」
と
「納期・リソースの健全度」

品質改善のデータ

どの開発プロセスに構造的な
不具合原因があるか

確実なガバナンス

退職者のアカウント消し忘れがないか、
棚卸しが確実に実施されているか

VS

現場のエクセル管理で起こっていること

各プロジェクトの進捗表や
WBSが個別に作られ、実態
（遅延リスク）が見えない

不具合管理表が分断され、
開発タスクとの因果関係が
追えない

ツールアカウント・アクセス権限管理表
が手動更新のまま形骸化している

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

エクセルの個別管理が招く3つの隠れた経営損失

エクセルの個別管理によって生じる情報のギャップは、現場のマネージャーが多大な「集計・調整工数」を割くことで、辛うじて埋められているのが実態です。この構造が、経営を蝕む3つの損失を生んでいます。

損失 01

中間管理職の「集計・報告工数」の肥大化

進捗・品質報告を作るためだけに、乱立するエクセルや不具合管理表をマネージャーが手作業で集計する工数が発生。本来やるべきリスク検知やピープルマネジメントの時間が消滅する。

損失 02

人力集計による「リスク検知のタイムラグ」

会議用に週1回加工されたデータは、すでに「過去の情報」。開発の遅延や不具合多発といった深刻なアラートがリアルタイムに届かず、問題が火を噴いた段階で初めて発覚する構造から脱却できない。

損失 03

手動更新の限界による「ガバナンスの形骸化」

アカウントやアクセス権の棚卸しがエクセルと個人の記憶に依存しているため、退職者の消し忘れや確認漏れに気づけず、実施したことを示す証跡も残らない。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

「中間管理職の人力」を排し、情報を自動集約する「仕組み」への転換

点在するエクセルのギャップを埋めるためにマネージャーの工数を消費する運用を止め、
現場が普通に業務を動かすだけで「経営に必要なデータが自然と1か所に集まる仕組み」へシフトする必要があります。

変革 01

個別管理から「1つのプラットフォームへの集約」

進捗管理、不具合管理、アカウント権限といった異なるデータを分断させず、
1つのシステム上で紐づけて管理。これにより、データ探しのタイムラグを削減する。

変革 02

手動更新をなくし、「日常業務＝リアルタイムな証跡」にする

報告のためにデータを加工するのではなく、現場のタスク更新がそのまま部長層の見る進捗情報へ直結する環境を作る。常に「最新の真実」を経営層が把握できるようにする。

変革 03

マネジメント層自身が「いつでも組織を俯瞰・監査できる体制」へ

部門責任者自身がいつでも各プロジェクトのボトルネックや棚卸しなど統制業務の実施状況をクリアに
一元俯瞰できる体制を確立する。

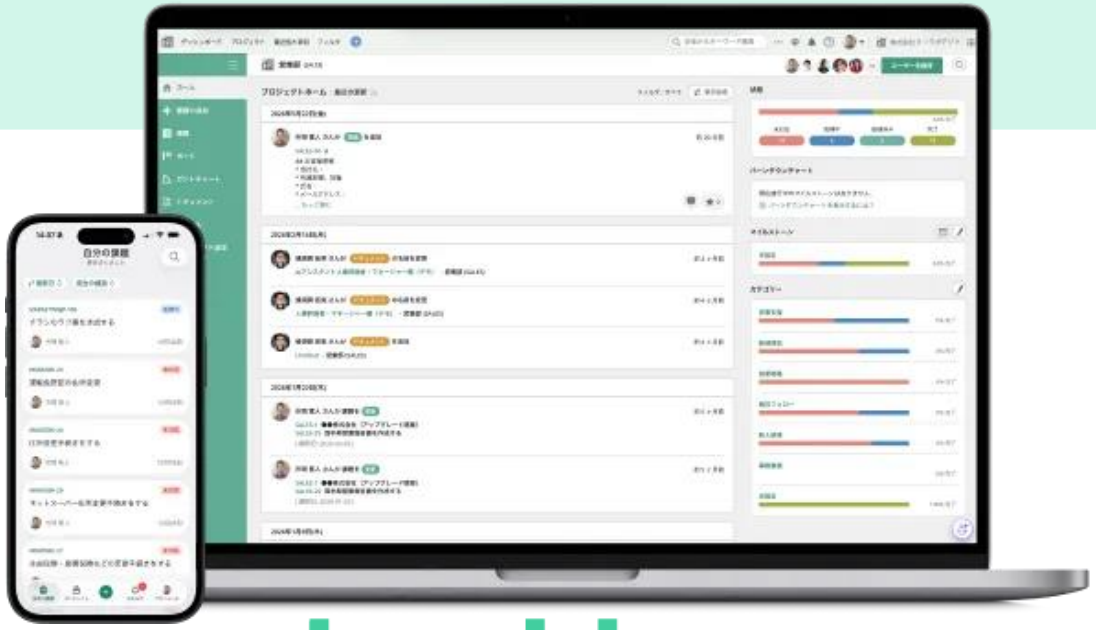
©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

「進捗」「品質」「統制」にかかわる情報を集約するBacklog

Backlogは、開発現場のタスク管理だけでなく、
不具合の追跡、アカウントの権限管理までを一元化できるプロジェクト・タスク管理ツールです。

開発現場・情報システム部門

- 開発タスクの進行確認
- 不具合の追跡
- アカウント・権限に関する確認
- 関係者への依頼・連絡



backlog by nulab

経営層・部門長

- 進捗状況の把握
- 品質情報の可視化
- 統制状況の確認
- 会議・報告情報の整理

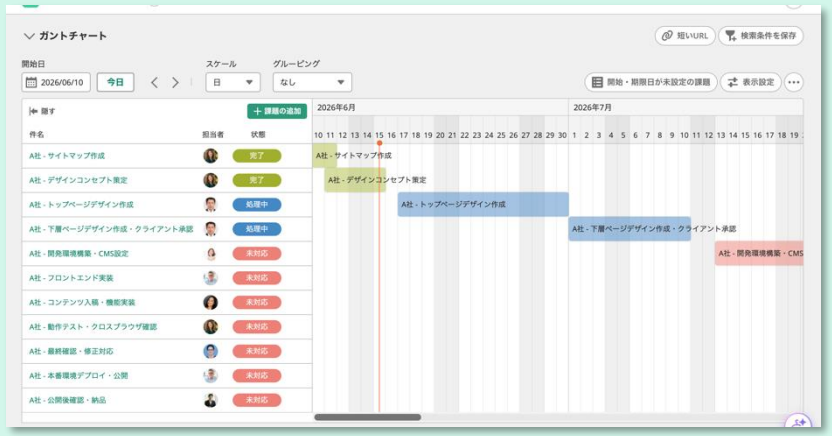
現場が普通に業務を動かすだけで、経営に必要なデータが1か所にリアルタイムで蓄積される環境を構築し、
IT組織の「全体最適」と「確実なガバナンス」を同時に実現します。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

Backlogでできること 1：タスク・ステータス管理

開発工程ごとの業務をはじめ、不具合を「課題（タスク）」として登録・管理。
関係者が同じ画面で担当者・期限・状態を一覧で確認できる状態にします。







親子課題・孫課題*

タスクの作成・割り当て・追跡を効率化

- タスクのステータス管理と優先度設定
- 担当者の割り当てと期限設定
- コメントによるフィードバックと履歴管理

ガントチャート

プロジェクトのスケジュールを視覚的に管理

- タスクの工程とスケジュールを可視化
- ドラッグ＆ドロップで簡単にスケジュール調整
- マイルストーンの設定と進捗管理

ボード

直感的なタスク管理とワークフロー

- ドラッグ＆ドロップで簡単に状態変更
- 作業の進捗状況をビジュアル化
- ワークフローの効率化と可視化

*一部プランのみ使用できます。詳細は料金ページをご確認ください。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

Backlogでできること 2：コメント・ファイル共有

仕様や不具合対応など業務を進める際に発生する議論や判断理由を、コメント欄に直接記録。
タスクと紐づいて蓄積されるため、メールやチャットを遡らずに、やり取りの経緯をたどることができます。





コメント

タスクに紐づけてコメントを残せる

- 経緯や判断理由をやり取りごと残せる
- 関連ファイルの添付も可能

ファイル

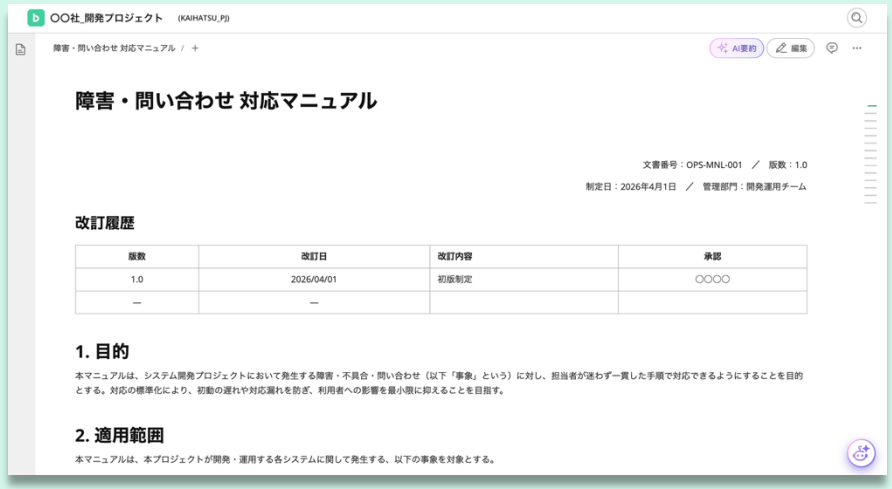
プロジェクトごとにファイル格納

- PDF、画像、エクセル／ワードファイル等を格納可能
- 格納場所を一元化することで情報の散在を防止

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

Backlogでできること 3：ドキュメント・AIアシスタント

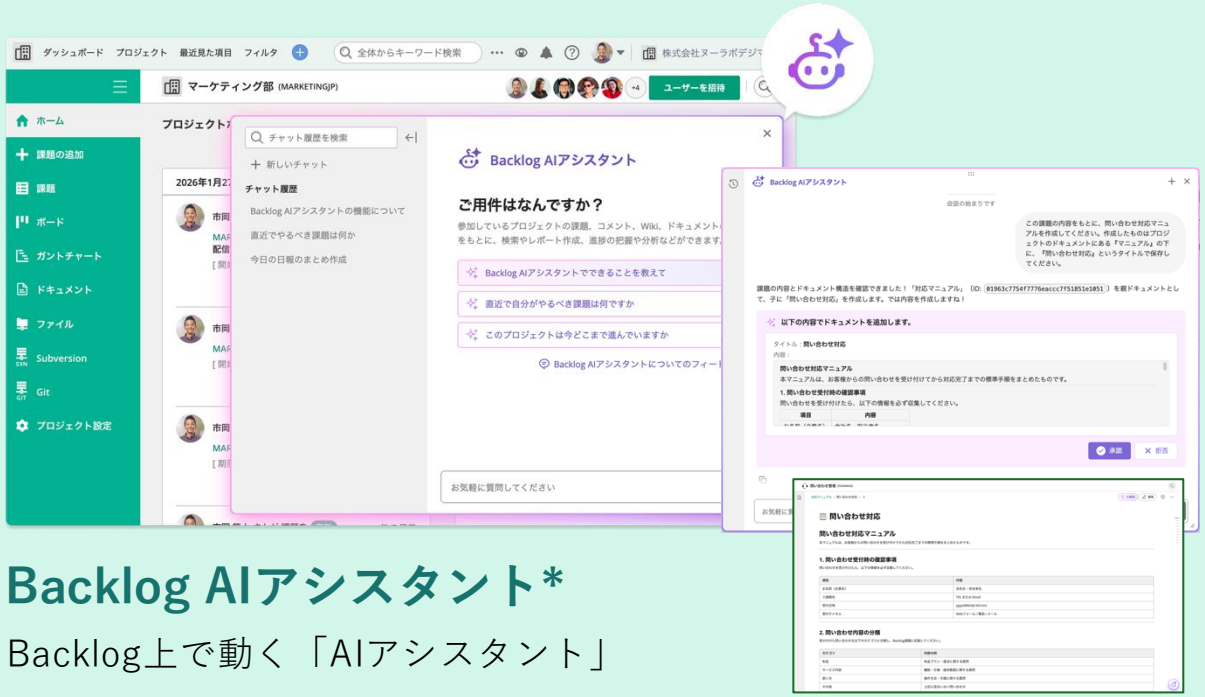
繰り返し聞かれる判断基準や対応マニュアルをドキュメントにストック。
案件の関係者が必要なときに参照できる「情報資産」に育ちます。



ドキュメント

チーム内での情報共有とナレッジベース構築

- プロジェクト内の知識を一元管理
- マークダウン記法でドキュメント作成
- 複数人での共同編集と履歴管理



Backlog AIアシスタント*

Backlog上で動く「AIアシスタント」

- 自社の業務の背景や文脈を踏まえてAI回答
- 専用のAIを構築せずに使える
- 進捗管理やレポート作成、人事評価などにも役立つ

*一部プランのみ使用できます。詳細は料金ページをご確認ください。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

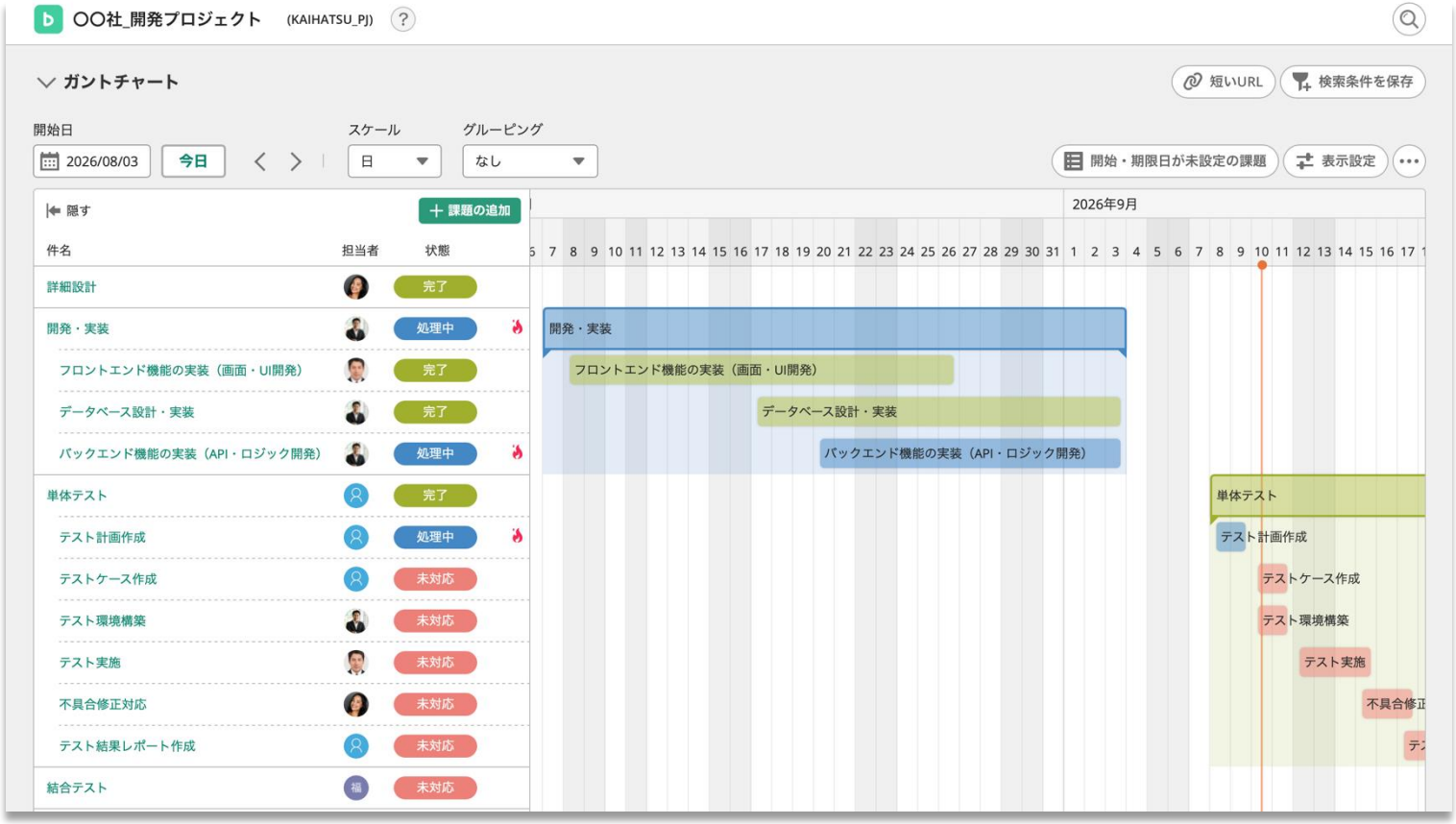
活用シーン：進捗の可視化で、報告会議を待たずに納期遅延の予兆をつかむ

活用シーン
01

プロジェクトの納期遅延リスク

現場のエクセル更新が遅れ、部長への報告会議の席で初めて遅延が発覚する。

現場の作業更新がそのままガントチャートに反映。マネジメント層が「本当のボトルネック」を早期検知し、手遅れになる前にリソースを再配分できる。



©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

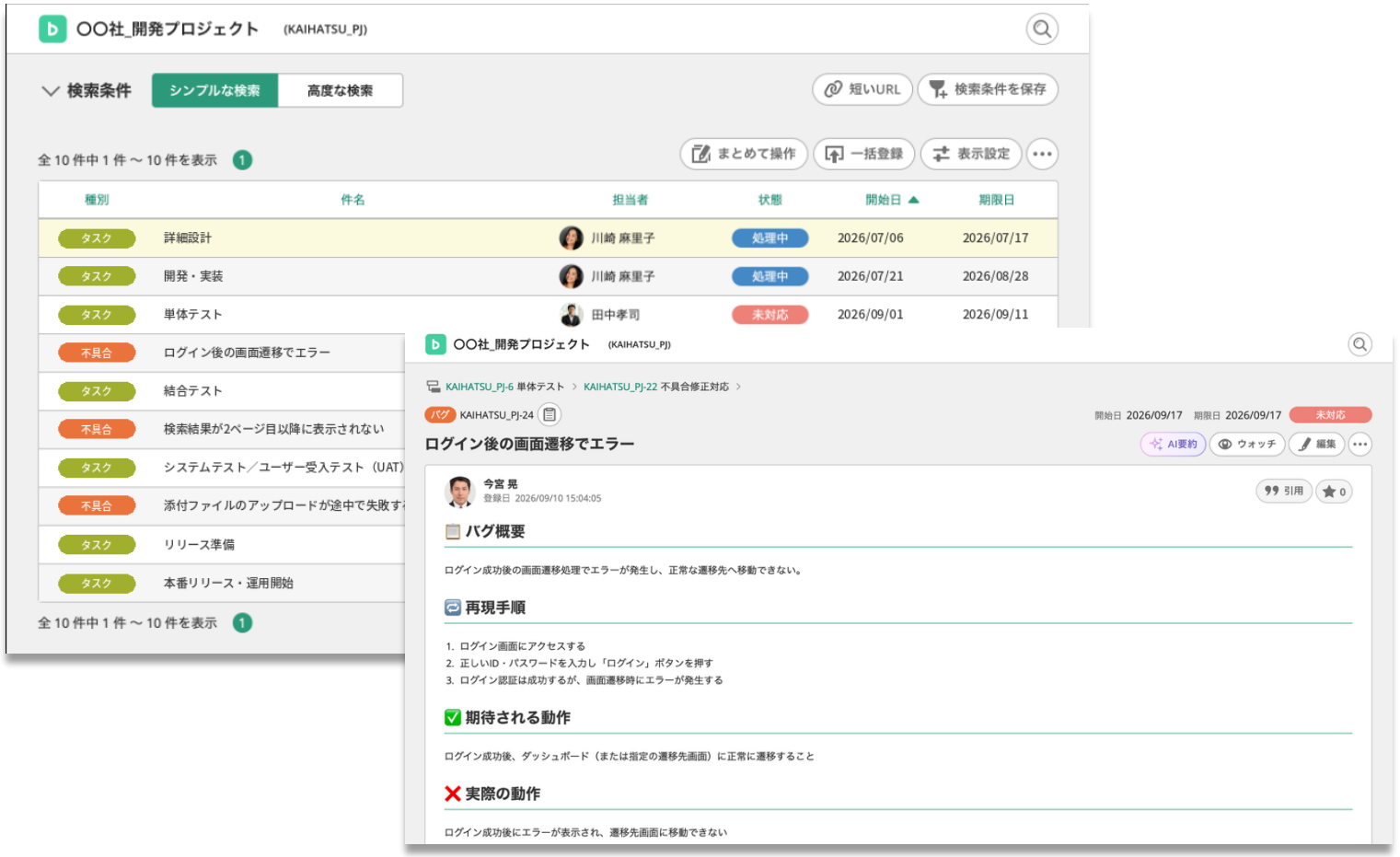
活用シーン：タスクも不具合も同じ場所へ、報告のための突き合わせをなくす

活用シーン
02

進捗と品質の報告工数

進捗管理表と不具合管理表が別々のエクセルにあり、報告のたびにマネージャーが両方を突き合わせている。

開発タスクと不具合が同じプロジェクトに記録され、報告用に集計し直す作業が減る。マネージャーは資料づくりではなく、原因の分析と手当てに時間を使える。



©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

活用シーン：棚卸しのタスク化で、監査で問われる証跡をその場で示す

活用シーン
03

権限の棚卸しと監査対応

ツール権限がエクセルの手動更新に依存し、退職者の消し忘れや「誰にどの権限があるか」の棚卸しに毎回膨大な工数がかかる。

棚卸しを課題として起票し、
対象者・確認担当・期限・完了証跡を一覧で管理。誰がどこまで確認したかが常に見えるため、監査時に証跡をそのまま提示できる。

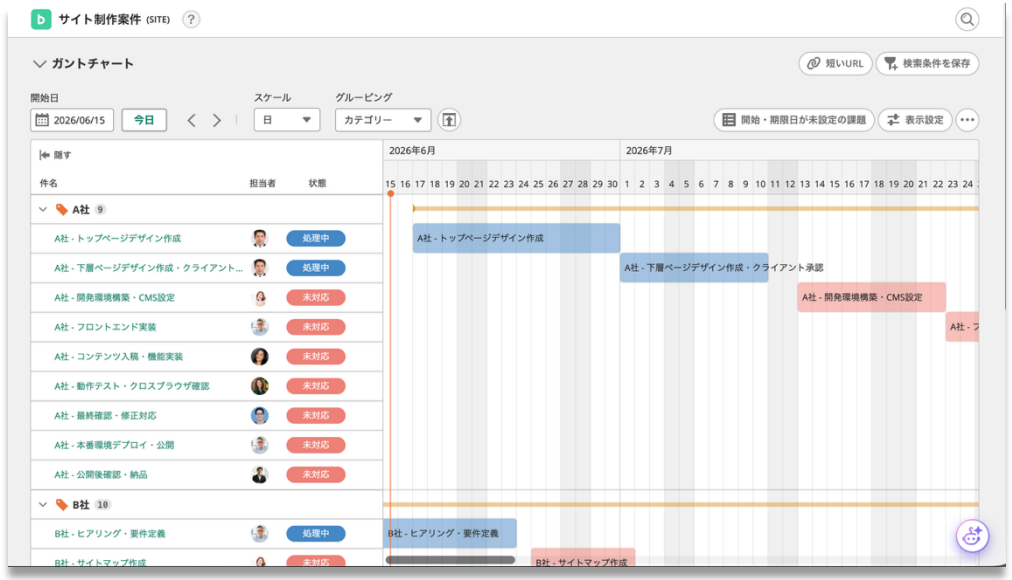


©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

活用シーン：案件が増えても把握工数は増やさず、過去の記録を次に活かす

活用シーン 04 複数プロジェクト・外部パートナー連携

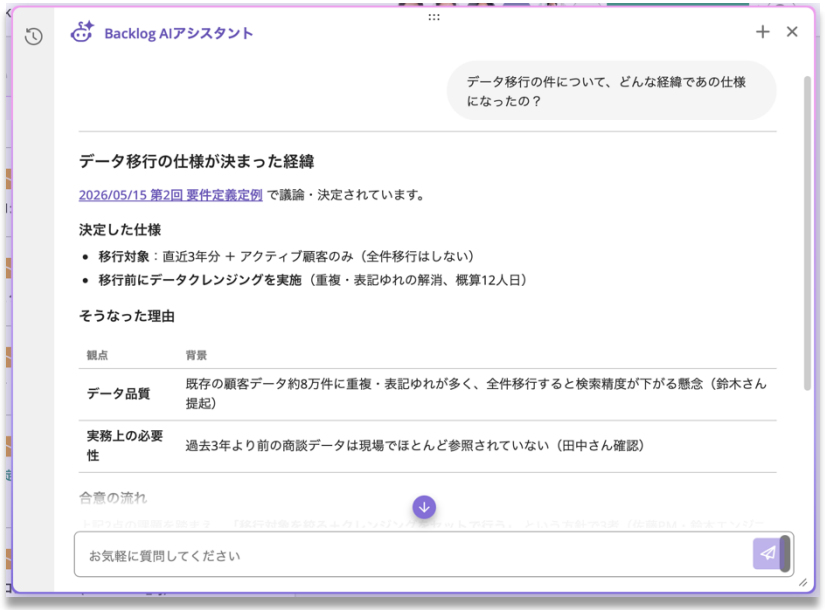
社内外の関係者全員で認識を統一させるために、
ガントチャートで進捗を確認する。



**プロジェクトが増えても、
把握にかかる工数の増え方を抑えられる。**

活用シーン 05 過去案件のナレッジ活用

類似案件の対応履歴や判断を、Backlog AIアシスタントに聞く。



**蓄積した記録をそのままAIが参照するため、専用のAIを
構築・投資せずに社内のナレッジを活用できる。**

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

導入事例①

情報の集約で、会議を状況共有から意思決定の場へ変える



Case 1
IT／システム開発・コンサルティング
情報システム・全社プロジェクト管理

導入前

- エクセルやチャットに情報が点在し、プロジェクトの状況把握のために都度確認が必要。会議の大半が状況共有に費やされていた。

Backlogの使い方

- 全情報をBacklogに集約。進捗・タスク量・状態・期日が可視化され、情報共有にかかる工数が大幅に削減された。

導入後

- 複数のプロジェクトに関わるマネジメント層が自分で状況を確認できるようになり、会議では判断・相談に時間を使える体制へ移行できた。

詳細はこちら

Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

導入事例②

タスクの可視化で、リリース日程の認識ずれと対応遅れを防ぐ



Case 2

IT／システム開発・Web制作

導入前

- エクセルでの課題管理では、タスクの状況や担当者が把握しにくく、進行がスムーズにいかない場面が発生していた。

Backlogの使い方

- タスクを課題として登録し、ガントチャートで進捗を管理。追加リリースや保守はマイルストーンでリリース日程を管理する。

導入後

- タスクが可視化され、スケジュールの遅れに早期に気づける体制に。
- 定例会議は2時間から早ければ30分に、クライアントからの回答は1週間ごとの定例会議待ちから2〜3日に短縮された。

詳細はこちら

Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

導入事例③

不具合情報を構造的に記録し、対応から原因分析・再発防止へつなげる



Case 3

IT／システム開発（オフショア） 開発・品質管理

導入前

- 以前使っていた他社のタスク管理ツールでは、使いやすさやコミュニケーションの取りやすさに課題があった。
- アジャイル開発に適したツールが求められていた。

Backlogの使い方

- 不具合の種類・原因・発見フェーズ・修正方法を同じ粒度で記録。
- 迅速な修正対応や原因分析・再発防止に活用できるデータとして蓄積した。

導入後

- 不具合管理表が単なる一覧から、品質改善の根拠として使える情報基盤へ変わった。

詳細はこちら

Backlog導入事例はこちらからご覧いただけます

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

Backlogが「全社の基盤」になる3つの理由

Backlogは、人数を気にせず必要な人を招けること、情報を安全に預けられること、
職種を問わず定着することで、部門を越えた全社の共通基盤になります。

理由
01

人数を気にせず
全員を巻き込める

**「ユーザー数無制限*」だから
人数が増えても費用はそのまま**

ユーザー単位の課金が主流のなか、Backlogは1契約ごとの定額制です。人数が増えても費用は変わらないため、各部門はもちろん協力会社まで、必要な人すべてを同じ場所に招くことができます。

*安定運用のため最大10,000人を推奨。プランにより上限が異なります。詳細は料金ページをご確認ください

理由
02

全社の情報を
安心して預けられる

ISO/IEC 27001・27017・27018を取得24時間365日のサーバー監視体制

通信はすべてTLSで暗号化され、データベースは常時別のデータセンターへ複製したうえで日次バックアップを保管しています。経済産業省やIPAの基準に準拠したセキュリティチェックシートも公開しています。

理由
03

部門を選ばず
全社に定着する

**開発部門から営業・総務まで
職種を問わず使える設計**

開発部門はもちろん、営業・人事・総務など、職種を問わず活用できます。直感的な操作性で導入のハードルが低く、現場に根づいて全社の共通基盤として定着します。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

お気軽にお問い合わせください

無料トライアルで試す

まずは使ってみる



30日間無料で試す

オンラインセミナーで学ぶ

まずは話を聞きたい



オンラインセミナー

個別相談会で相談する

相談しながら決めたい



個別相談会

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」 ● オンラインホワイトボードツール「Cacoo」 ● 組織の情報セキュリティ・ガバナンスを強化するツール「Nulab Pass」 ● ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.